

目 次

馬事資料

オリンピック馬術競技への日本の参加準備とその結果戦後復興期：

1952年ヘルシンキ大会から1960年ローマ大会まで……………池田 収……………1

ばんえい競馬の崩壊と再生（下）……………古林 英一……………13

厩猿信仰と現代に残る信仰事例……………川本 芳……………21

書籍紹介……………27

日本ウマ科学会第31回学術集会 優秀発表賞受賞者紹介……………28

Journal of Equine Science Vol. 30 No. 1, March 2019 和文要約……………29

学会記事……………30

お知らせ……………42

協賛団体名・賛助会員名簿……………43

Hippophile 投稿に関する基準……………44

編集後記

Hippophile No. 76

- 編集委員 -

| | | |
|----------------|---------------------|--------------------|
| 編集担当常任理事・編集委員長 | 楠瀬 良（日本装蹄協会） | |
| 編集委員 | 相川 貴志（地方競馬全国協会） | 関 正喜（ジャーナリスト） |
| | 荒川由紀子（農林水産省） | 永井富美子（エディター） |
| | 有吉 正徳（朝日新聞社） | 沼田 恭子（NPO 法人引退馬協会） |
| | 石田 信繁（JRA 競走馬総合研究所） | 古林 英一（北海学園大学） |
| | 北野あづさ（日本馬術連盟） | 三浦 暁子（エッセイスト） |
| | 木村李花子（東京農業大学） | 守谷 久（ジャーナリスト） |
| | 近藤 誠司（北海道大学） | 山口 洋史（全国乗馬倶楽部振興協会） |
| | 末崎 真澄（馬の博物館） | 山下 大輔（日本馬事協会） |
| | 杉本 篤信（地方競馬全国協会） | |

表紙絵：騎手（The Jockey）：アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック（1864-1901）1899年 49.8×34.1 センチ多色刷り

リトグラフ 馬の博物館蔵

「騎手」は、晩年に近い療養中に一連のサーカスシリーズとともに表した作品である。ロートレックは、少年の頃に父親とともに乗馬をし、競馬場にもしばしば通った経験があり、晩年に再びその情景を思い巡らしている。後ろ姿の騎手は、あるいは馬と競馬を愛した父と自分の姿を映し出しているのかもしれない。

日本ウマ科学会

Japanese Society of Equine Science